

第2章 地域の概要

1. 太宰府市の概要

本市は福岡市の南東約16kmに位置し、北東部は糟屋郡宇美町、南東部は筑紫野市、北西部は大野城市に接し、面積は29.58km²となっている。東に宝満山、北に四王寺山を有し、南から西北に開け、御笠川が市を縦貫している。

市内には九州自動車道、国道3号、福岡都市高速道路及び筑紫野古賀線をはじめとする県道11路線があり、九州自動車道太宰府インターチェンジ、福岡都市高速道路水城インターチェンジが設置されている。このほか、JR鹿児島本線、西鉄天神大牟田線及び太宰府線の3路線が市民の重要な交通手段となっている。

古代においては大陸文化の窓口、防衛・外交の要衝として「大宰府」が置かれたところであり、中央の南北に朱雀大路を配し、南北の大路（坊）と東西の大路（条）を基盤の目状に組み合わせた条坊制の都市が形成された。その後、都市機能の遷移などによりかつての区画は徐々に失われてしまったが、国指定特別史跡である「大宰府跡」「水城跡」及び「大野城跡」をはじめとして、観世音寺、戒壇院、太宰府天満宮など、数多くの歴史・文化的遺産や九州国立博物館を有していることから、「史跡・観光のまち」としても広く知られている。

かつては、御笠川流域に沿った水田稲作を中心とした農業と、太宰府天満宮門前町を中心とした商業が主要な産業であった。しかし、福岡市を中心とした経済圏の中で、第一次産業、第二次産業の占める割合は次第に低下し、他市への通勤者の増加とともに小売業を中心とした第三次産業が活発化することとなった。



太宰府市の位置



太宰府市における史跡等の分布

2. 上位関連計画

本構想は「第5次太宰府市総合計画」を上位計画とし、関連計画や関連施策との整合を図りながら内容を定めるものとする。

